

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	OZデイわかやま		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 6日		2026年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10 (回答者数)	9
○従業者評価実施期間	2026年 1月 6日		2026年 2月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15 (回答者数)	13
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 15日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個に応じた支援を行うと同時に全体で楽しむ支援を計画的に考えている。	季節を大事にし、体験やリハビリを重視した支援を行っている。	保護者への支援の充実。(保護者を予定している。)
2	利用者の自己決定を促す関わりができています。選択肢提示の工夫がある。	選択できる利用者には、二択で問いかけて自己決定を促している。 日々の関わり方として意識している。	二択に加え、自己決定の場を支援記録等で共有し、関わり方の統一を図る。
3	地域とのつながりがあり交流機会を作れている。地域に根ざしている印象につながっている。	イベントで地域の中学生や職員の子ども等と交流している。 毎月の地域の行事を調べ、下見を行いできるだけ外部と交流する機会を持っている。	情報取得が遅いため、計画を実際に発信することが多いため、早い段階で情報発信する。地域交流を、無理のない範囲で継続的に行っていく。
4	インスタや毎月の新聞を通じ情報発信ができています。LINEで保護者との連絡を密にできています。	情報伝達について個人情報法の取り扱いに配慮している。 できるだけ平等にみんなの写真を入れている。	インスタや新聞を連携させる等ホームページの充実を図る。
5	出かける機会を多く作ってことで、急な災害時にでもすぐに対応できる訓練になっている。日頃から支援で声を掛け合ったり、携帯電話で、情報共有を行っている。	自治会やご近所とのかかわりを積極的に行い、何かあったときに助け合える関係づくりをしている。	事業所に送られてきた研修案内を事務室のわかりやすい場所に掲示している。 YouTube等での研修を行っている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースが狭いと感じられている。人数が多い時に負担感が出やすい。	利用人数が多い時に「狭い」との声がある。少人数なら良いという声もあり、人数と環境の相性が課題になっている。	・支援者会議が定期的に開催され、できるだけ多くのスタッフが参加できるようZoom等も利用して工夫されている。
2	バリアフリー面の不足が指摘されている。環境整備が追いついていない。	バリアフリーではない、整備されていないという受け止めがある。	バリアフリーのある広い場所に移転を検討中。
3	プログラムや予定が利用者側に伝わり切っていない。内容が「わからない」と感じている。	「プログラムはわかりません」「現状がわからない」といった記載がある。 周知はしているが、もっと早い段階での周知が必要である。	アセスメントをとり、日々の行動観察の記録は取れている。
4	各種マニュアルの存在や内容が周知されていない。安心材料として活用されていない。	事故防止・防犯・感染症対応マニュアルについて「知らない」という声がある。「わからない/現状がわからない」も複数あり、周知の課題が示唆される。	保護者に向けて、マニュアルの概要(目的、緊急時の流れ、連絡体制)を共有する機会を設ける。 閲覧手段(紙・PDF等)と更新時の周知方法を明確にする。
5	人員体制への不安・負担軽減の要望がある。継続的な体制整備が求められている。	来年度以降も人員体制を整えてほしいという声がある。 業務量や利用状況に対して、体制が十分に見えにくい可能性がある。	いろんなスタッフに意見を聞くようにしている。Line等を使い、みんなからいろんな案を集めている。
6	保護者支援(レスパイト等)に対する期待がある一方、ニーズが満たし切れていない。希望が通らない経験が課題になっている。	親への支援やレスパイトの要望がある。営業時間出勤時間の兼ね合いで、保護者の要望に答えられなかったためと考えられる。支援提供の範囲・条件の整理が必要になっている。	提供可能な支援(相談、情報提供、レスパイトの考え方等)と限界を明確化し、代替案も含めて案内する。 働く保護者の負担軽減につながる工夫を、実現可能な範囲から検討する。